

ダボハゼ

無論、悪口である。・・・・・・・・野球に興味のない方でも巨人軍くらいは御存じだろう。この巨人の投手の堀内。王・長嶋をバックにしながら、よれよれの 200 勝投手になった。以前にも書いたが、広島カープのような弱小球団の長谷川良平投手の 197 勝の方がはるかに値打ちがある、と書いた。・・・・・・・・この堀内、口も悪いが、態度も悪い。偉そうにするから嫌われている。山梨の高校野球の監督が、「野球は王・長嶋より上手い」と「井の中の蛙、大海を知らず」を地で行く馬鹿者だったから、可愛がりすぎて、勘違いさせてしまった。だから、自称一流である。ボクは、単なる並の選手が王・長嶋のおかげでようやく 2 流になったくらいにしか思っていない。なぜなら、中日に高木守道という優れた 2 塁手がいた。この選手の頭にデッドボールをあてた。その時は単なる揉め事で済んだが、2 回目に高木選手の頭にデッドボールをあてたとき、高木が「オレをつぶす気か！」と激怒したから、顔面蒼白になって逃げ回っていた。・・・・・・・・その程度の選手である。・・・・・・・・この堀内が中畑清選手のことを「ダボハゼ清」と言った。どんな悪球にも手を出すところがあったからである。中畑は明るく、はつらつとしていて好かれていた。のち DeNA の監督にもなったが、結局は奮わなかった。それでも TV に出演している。人徳やね。

堀内が巨人の監督になったとき、期待した人も多かったようだが、監督の采配でもあり、選手の能力でもありだが、いずれにせよ負けてばかりで、下位を低迷していた。すると、政治評論家の故三宅久之先生が、「あれは疫病神ですよ！」と吐き捨てるように語られた。たかじんを始め、だれも抵抗ができない。結局その年で解任。

ダボハゼで思い出すが、すでに「一生懸命に治療をすればするほど患者の容態が悪くなる」と書いたが、医者の中にもいた。新しい薬といえば飛びつく。先輩が嫌がって、あまり相手にしなかったのだが、それでも判定不能の患者を大量に出した。

こういう馬鹿者は、日本中にいる。大病院も開業医もない、ひたすら新薬を待ち、それが発売になると先を争って購入して使用する。TV のコマーシャルも流す。医者も患者も信用する。ボクは一人嗤っていた。

新薬は、せいぜい何百人か何千人かの治験（臨床試験）でも有効性ばかりが強調される。いざ発売となると、待ってました、とばかりに日本中で

何十万人、ときに何百万人が一気に買い求める。すると、千人単位ではみられなかった副作用（薬にしてみたら、これが主作用なのかもしれない）が続々と表出してくる。最近では大きな話題になったゾフルーザがある。インフルエンザの治療薬で、“1 日でウィルスが消失する”、というものであった。（コマーシャルによる。）念のため、他にインフルエンザに有効な薬が存在していたのである。

ゾフルーザに関して、ボクが経験したものは、どこかの医院で処方され内服後 5 日経って、本人は元気そのもの。で、会社に対し、これから営業にいきます！といったところ、「アホッ！ ウィルスが消えているかどうかたしかめてこい！」この会社の姿勢は極めて正しく、拍手を送りたい。ボクの診療所で調べたら、ウィルス反応が陽性になったのである。・・・1 日で消滅するんじゃなかったの？・・・製薬会社（書いてもいいだろう、塩野義製薬だ）の説明は、「1 日というのは、中央値です。」つまり 100 人の患者で、50 人目の患者が 1 日で消滅することです。・・・この説明が嘘であることは、半年もしないうちに、耐性株（ゾフルーザが効かないインフルエンザウィルス）が出現したことである。つまり効かなくなった。今や、だれも見向きもしない。むろん、新型コロナの影響もあるが。

ボクが医師になった時、副薬局長の女性が教えてくれたことは、「薬というのは、発売後 2～3 年してから使用するものです。」・・・今でも守っている。おかげで、ゾフルーザが無効になった患者も有効だった患者も診ていない。で、日本中の「ダボハゼのように飛びついた医師たち」を唾っている。

以上のことは原則であり、他に有効な薬剤が見つからないときには、ダボハゼと言われようと、多少の危険を承知で飛びつかざるを得ない。